第　６４号
平成２０年１０月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

菩 提 心

菩 提 心

お大師さまのお言葉に、「もし衆生の心清浄なる時は、即ち佛を見、もし心不浄なる時は、仏を見ず」（弁顕密二教論）とあります。

―私たちの心が清浄なる時には、仏さまの思いやりと感謝の心に満たされ、生きている意味を知り、安らぎを得ることが出来る。しかし、心が清浄でない時には己の内なる仏さまを見失ってしまう―と、教えて下さっておられます。

朝一番に口を濯ぎ身を整えてお仏壇の前で手を合わせ、今日一日を無事に努めさせていただけます様にと祈る心、夕べに手を合わせ今日の無事を感謝して拝む心が清らかな心であり、周囲のあたたかい心に感謝し、共に生かし合って生きてゆこうとする心が菩提心であります。この世の中すべてのものに思いやりをもって、差別することなく平等に価値を認め合える様に努めたいものであります。

手を合わせて拝んだ時の爽やかさと、安らぎの心は、何ともいえない良い気持です。

家族が一心に祈る心こそ、仏さまやご先祖さまに感謝を捧げる報恩の生活の第一歩であり、やがては周囲の人々に思いやりの心で接することのできる生活になるのです。

今や日本は驚異的な発展を遂げました。反面、自然破壊や汚染、社会生活の中にも家庭崩壊や凶悪な事件など数多く見られます。知育の偏重な教育が助長され、難問題が続出している昨今。　お金さえあれば幸せになれるという風潮、経済中心、物中心の考え方から離れて、もっと心を大切にする考え方に社会や家庭が目を向けなければなりません。

今こそ、人間本来の清らかな心、寛大で思いやりのある心を培って、人間性の回復を求められている時はありません。

或る信心深いお宅の娘さんの結婚が間近となった時のお話です。

その娘さんは、二十数年間、育み育ててくれたこの生家に感謝と記念に何か残してゆきたいと、両親に相談をしました。

そして、娘のたっての願いを受けて仏壇を購入し、先祖のご供養をして娘さんは嫁がれました。

このような心掛けをお持ちの娘さんですから嫁ぎ先でも、お仏壇に毎朝ご飯とお茶をお給仕し、お線香を立ててお参りをかかしません。ご家族を始め、御先祖さまも大変お喜びでしょう。「うちのお嫁さんは毎日かかさずご先祖さまにお給仕してくれるのですよ」「私なんかはずかしい」と感心して語ってくれたお姉さん。今では孫達も一緒に朝、仏前でのお勤めを欠かしません。　「家ではご先祖さまを中心に、家族仲良く暮らしていますよ」と、嬉しそうです。

人生は修行であるといわれます。　自身の祈りが仏さまへ届くよう、一心に精進致すことこそ家庭における一つの修行の形でもあります。　そして家庭の中で自然に身についた〃祈り〃と〃感謝〃の心は菩提心として、育まれていくのです。

（中川）

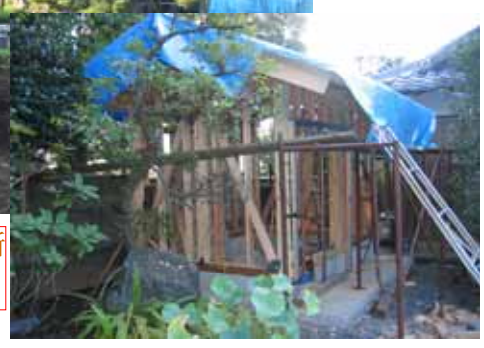
平成二十年　秋彼岸　　いかせいのち　より

三　昧（さんまい）

。「ぜいたく三昧」にしていると、「三昧場」（墓所）に直行だぞ、と言っても今はもう通じない。梵語サマーディの音写である。瞑想して静かに統一された心の状態、もはやあれこれの念の無い状態をいう。じぶんとたにん、自己と対象という念をも脱却した境地である。心を一カ所に定めて動かさないところから「定（じょう）」といい、平等の心を保つところから「等持（とうじ）」ともいう。

今夏松枯れの手入れをしました。

旧便所を取り壊して場所替え新築中です。



空 海 の 言 葉　シリーズ

三界の狂人は狂せることを知らず　秘蔵宝鑰』

●●●欲界 色界 無色界の三界の、それぞれの世界に住む人たちは自らが狂っていることを知らない

気持ちがよいとか悪いとかいいますが、気をもつには、もち方があるようです。

気というのは「心の動き」です。正しい心の動きをしている人は、正しく気をもっているので、「正気」の人です。間違った心の動きをしている人は、間違った気をもっているので、「気違い」の人です。心の動きの、前後左右上下の方向がまったく狂ってしまっている人は、「狂気」の人、「狂人」です。

「天才と狂人とは紙一重」とはよくいうことばですが、成績優秀な学生ほど、ノイローゼ、神経症になりやすいそうです。

三界のなかの欲界は、欲ばかりの世界です。色界は、なんとか生きているだけで、あとはなにも要らない。という世界です。無色界は、心の喜びがあれば、物質的なものは不要、という仏さまのような世界です。

「どの世界にいても、自我があれば狂うのだよ」と、弘法さんは忠告されています。　空海のことばより